

人間を理解する領域

人がどのような存在であるかについて、論理的思考力を培いながら幅広く学び、「人は一人ひとりがかかけがえのない存在であり、環境と相互に作用しながら成長・発達する存在である」ことを理解していく

1 年次 全期	論理学	講師名	森 誠治	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	気になることがあると、その事が頭を占めてしまいます。「物事はつながりの中で変化している」と知っていても、それを忘れて考えてしまいます。つながりは肉眼では見えないからです。頭の中の目の視力を高めて、そのつながりを見つけ、つながりに働きかける。その力を育てるのが論理学という科目のねらいです。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	14 回の授業の全体像の紹介 ガイダンスを使って授業の目的と全体像を説明し、いくつかの単元の問題を少しだけ行います。	論理学は考え方を自力で見つけ、それを身につけるための教科です。予習はしないでください。新鮮な気持ちで課題に向かってください。 「考え方」は最初は馴染みにくいでしょう。日常生活で意識的に繰り返し使って、すぐに思い出せるようにしてください。
2	※毎回最初に、前回の小テストの復習をし、「ちょっといい話」を読みます。最後に小テストを行います。	
3	対象について 空間的なつながり	
4	いくつかの対象の共通性を見つける練習です。	
5	「上り下り」という考え方を学びます。	
6	対象について 時間的なつながり	
7	時間軸を設定し過去と現在のつながりを見つけます。	
8	認識について	
9	人間はどのように物事を考えるのかを話題にします。	
10	看護の「立場の変換」についても学びます。	
11	表現について	
12	相手に負担をかけない表現の方法を学びます。	
13	何がなぜ看護なのか	
14	実習を素材にして、論理学でつけた力を発揮して考察します。	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	頭を酷使します。前の晩はよく寝ておくこと。
評価方法	3種類の評価課題を出します。 ①平常点 30 点（毎行う小テスト、单元ごとに出题する宿題） ②レポートテスト 30 点（前もって課題を出します。1 月の実習を基にした「何がなぜ看護なのか」がレポートの中心課題です） ③当日筆記テスト 40 点（考える力の評価です。14 回の授業が対象です）
テキスト	講義時に資料配布
参考文献	授業の中でたくさん紹介します。
備考	自分の人生だけでなく患者さんの人生のためにも、精一杯努力しましょう。

1 年次 前期	心理学	講師名	倉島 徹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人の心を科学的に理解するための基礎を学ぶ。自己と他者（患者、友人や家族）の心を科学的に洞察できる力、心の問題解決と成長を支援する力を高め、ひいては看護の職務や自分や周りの人のケアにも応用できることをねらいとする。単なる知識のみでなく、心理テストやグループワーク等の実習を適宜取り入れ、体験的にも学習を進める予定である。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	授業の進め方（講義と実習）、評価方法、心理学とは、様々な心理学；関係作り実習	教科書 P28～30、1 章 1 節を読む（以下同様） ＊色鉛筆等持参
2	心の構造,フロイトの自我・超自我・イド	教科書 2 章 5 節
3	自我機能	教科書 2 章 5 節
4	心理アセスメント（知能）；知能テスト	教科書 3 章 1 節～2 節
5	心理アセスメント（性格）；性格テスト	教科書 2 章 1 節～4 節、3 章 3 節～5 節 ＊エゴグラム実施
6	思春期の心理、対人・恋愛心理；愛のタイプテスト	教科書 4 章 1 節～3 節
7	適応・ストレスマネジメント,もえつきの予防、セルフケア	教科書 5 章 1 節～4 節
8	人間の心理学的理解 知覚；伝言ゲーム	教科書 1 章 3 節
9	人間の心理学的理解 認知；考え方のクセ	教科書 1 章 3 節
10	人間の心理学的理解 感情；音楽療法	教科書 4 章 4 節 ＊思い出の音楽を考えてくる
11	人間の心理学的理解 学習・記憶・思考・創造；ブレインストーミング	教科書 1 章 4 節、4 章 5 節 ＊三角巾等持参
12	心理的援助 1 カウンセリング、受容、傾聴；ロールプレイ	教科書 5 章 5 節、6 章 1 節
13	心理的援助 2 行動変容、ソーシャルスキル	教科書 5 章 5 節
14	心理的援助 3 集団療法・ソーシャルサポート；コンセンサスゲーム	教科書 6 章 2 節～3 節 ＊動きやすい服装
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	自分や周りの人の心理的な悩みとその解決や成長のきっかけについて、振り返り考えながら参加して下さい。予習は、分からなくても良いので教科書を読んでみて下さい。復習は配布プリントとそのキーワードの確認をして下さい。
評価方法	授業時の簡易レポート 30% : 授業後に感想や質問等を簡易レポートに書いて提出。筆記試験 70% : 穴埋め選択と記述による。(詳細は授業時に説明)
テキスト	『パーソナリティと心理学』第2刷 近藤卓 編 大修館書店
参考文献	系統看護学講座 心理学 医学書院
備考	心理テスト、ビデオや DVD の教材を使用します。無理のない範囲で個人と集団での実習を行います。

1 年次 前期	生涯発達論	講師名	政近 彩子	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	人間の心身・社会現象を成長・発達の観点からとらえ、人間理解を深める。幼児期から高齢者までの発達段階における特徴や課題などを理解し、対象ひとり一人に即した看護を実践する力を培う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生涯発達とは何か	
2	乳児期における発達の特徴	
3	幼児期前期・後期における発達の特徴	
4	児童期における発達の特徴	
5	青年期における発達の特徴	
6	成人期前期・後期における発達の特徴	
7	老年期における発達・生涯発達のまとめ	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	講義ごとに必ず復習をし、理解を深めた上で次回の講義に臨んでください。
評価方法	筆記試験 70% 平常点 30%（出席と小テスト、小レポートによって決定）
テキスト	高橋一公・中川佳子:発達心理学 15 講 北大路書房
参考文献	
備考	

1 年次 前期	生命の法則	講師名	種田 保穂	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	生物学的見地から人体について理解し、人体の構造と機能を理解する上での基礎を学ぶ。生きていく上で必要なエネルギー獲得のしくみや生存を可能にしている神経、ホルモン、免疫の三大調節機能について概説する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生きているとはどういうことか	
2	エネルギーの獲得	
3	神経の働きと神経による調節	
4	ホルモンの働きとホルモンによる調節	
5	免疫機能と自己の保存	
6	遺伝のしくみと遺伝子	
7	発生と老化	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	講義ごとに必ず復習をし、理解を深めた上で次回の講義に臨んでください。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	講義時に資料配布
参考文献	「“いきている”ってどういうこと」 種田保穂・秋山豊子著 培風館
備考	

1 年次 前期	生化学	講師名	中村 綾子	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	生命現象を化学的にとらえ、生命の仕組みを理解する。病気になったときに、生体内での反応に思いをいたる人もあるであろう。それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているのかを学ぶ。このような知識が病気を理解する上で重要であることは言うまでもない。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生化学と看護 代謝総論 代謝とは 代謝の制御	
2	生命と細胞	
3	酵素 酵素の役割・性質・分類	
4	さまざまな代謝 糖質代謝①	
5	さまざまな代謝 糖質代謝②	
6	さまざまな代謝 糖質代謝③	
7	さまざまな代謝 脂質代謝①	
8	さまざまな代謝 脂質代謝②	
9	さまざまな代謝 脂質代謝③	
10	さまざまな代謝 タンパク質とアミノ酸の代謝①	
11	さまざまな代謝 タンパク質とアミノ酸の代謝②	
12	さまざまな代謝 核酸代謝・ヌクレオチド代謝	
13	エネルギー代謝の統合と制御、ビタミンとその欠乏症	
14	遺伝情報 先天性代謝異常	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	教科書、参考書、プリント、スライド等を組み合わせて学習する。
評価方法	小テスト、レポート、生化学の特徴について、第1回から14回までの授業内容への理解度を定期試験（筆記試験：100点）により確認する。
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能②：臨床生化学 メディカ出版
参考文献	はたらく細胞 清水茜 講談社 マンガでわかる まるごと栄養図鑑 誠文堂新光社
備考	

1 年次 後期	栄養学	講師名	田村 須美子	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が健康的な生活を営むための栄養の意義や健康生活を阻害する栄養問題について学び、食物と人間との相互関係について理解する。さらに食事療法の基本について学ぶ。栄養・食生活の基本について学ぶとともに多職種連携の必要性和意義について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	人間栄養学	
2	栄養素の種類とはたらき	
3	食べ物の消化と栄養素の吸収	
4	エネルギー代謝・食品群の分類	
5	食品と食事	
6	食事摂取基準	
7	栄養ケアマネジメント、栄養状態の評価・判定、多職種連携	
8	ライフステージと栄養（１）	
9	ライフステージと栄養（２）	
10	臨床栄養（１）	
11	臨床栄養（２）	
12	臨床栄養（３）	
13	栄養指導体験（１）	
14	栄養指導体験（２）	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	食べ物と体の関係について理解する。健康食の基本である「糖尿病食事療法のための食品交換表」が使えるようになる。各自の食生活を常に意識しながら、講習に臨んでほしい。
評価方法	筆記試験 80 点 課題・授業内レポート出席授業態度 20 点にて評価する。
テキスト	糖尿病食事療法のための食品交換表 系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院
参考文献	栄養教育論（講談社サイエンティフィク）公衆栄養学（朝倉書店）
備考	

1 年次 前期	微生物学	講師名	蛭田 剛俊	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	様々な病原体と感染症並びに感染症の予防と治療等について学び、感染症に対し看護師として適切に対応するための基礎知識を習得する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	微生物の分類、種類、性質および微生物学の歴史	
2	細菌（一般細菌、リケッチア、クラミジア）の性質	
3	細菌（一般細菌、リケッチア、クラミジア）の性質	
4	ウイルスの性質	
5	病原微生物による感染と感染機構	
6	感染に対する生体防御（免疫）（1）	
7	感染に対する生体防御（免疫）（2）	
8	感染症の予防（消毒・滅菌、ワクチン）	
9	感染症の治療（化学療法）	
10	病原細菌各論（1）	
11	病原細菌各論（2）	
12	病原ウイルス各論	
13	病原真菌、原虫各論及びその他の病原体（プリオン）	
14	感染症の現状と対策（感染症法など）	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	感染症の現状を理解し、看護師業務におけるその重要性を認識する必要がある、意欲的な姿勢で授業に臨みたい。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院
参考文献	標準微生物学、山西弘一 監修、医学書院 細菌の逆襲、吉川昌之介 著、中公新書 免疫 生体防御のメカニズム、奥村 康 著、講談社
備考	

2 年次 前期	社会学	講師名	西山 晃生	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	多岐にわたる現代社会の諸問題をどのように理解し、どのように社会の中で生きていくべきなのかを議論していく。そこから社会の問題に対する情報を受け止める力、考える力、言い換えれば感性を養う。具体的には日本国内の国際化、民族と文化とその課題、コミュニケーション・情報をめぐる問題等について考察していく。 社会学の学習を通じて、論理的に物事をとらえ、具体的な事実に基づいて判断していく社会科学的な認識力を高めていく。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	社会学とは何か	
2	身体をめぐる社会学	
3	医療をめぐる社会学	
4	文化をめぐる社会学	
5	メディアと情報化をめぐる社会学	
6	家族をめぐる社会学	
7	消費をめぐる社会学	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	頻繁に情報が更新される分野なので、新聞・雑誌・テレビ・ネット等を通じて最新の動向に目をくばりましょう。
評価方法	筆記試験、出席等で総合的に評価する。（詳細は授業時に説明）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
備考	

2 年次 前期	家族関係論	講師名	櫻井 大輔 竹下 みのり 常田 奈津美	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	社会を構成する最小単位であり、誰もが当たり前にもっている『家族』。普段あまり意識することのない『家族』に焦点を当てて、現代家族についての理解を深める。 家族は 2 人以上の個人から成る集団であり、個人の歴史や価値観がその家族の反応として表現される。また、社会と密接に関係しており、社会からも大きな影響を受ける。本講義では、現代社会における家族の問題を扱いながら『自己の家族観』に触れる。同時に、家族の多様性を理解し、最終的には、看護師が医療現場で出会う様々な家族への理解を深めることが目的です。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	家族とは何か	
2	社会の変動と家族 現代の家族の課題	
3	夫と妻のパートナーシップ（夫婦関係論）	
4	親と子と孫の絆（親子関係論）	
5	高齢者と家族	
6	さまざまな家族の形	
7	家族支援のアプローチ	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	テキストや参考図書からハンドアウトを作成し、配布しますが、当該箇所を予習してくると理解が深まります。 授業のテーマにあわせて、参考文献や資料を講義内で照会します。毎日の生活で、新聞記事やニュースなど、家族に関する記事・世論調査などに関心を向けるようにして下さい。
評価方法	筆記試験 70 点 平常点 30 点（出席とレポートによる）
テキスト	よくわかる現代家族 第 2 版 神原 文子他 ミネルバ書房
参考文献	鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子（著） 『家族看護学―理論と実践 第 5 版』日本看護協会出版会
備考	授業の進み具合や皆さんの興味関心によって内容を変更することがあります

3 年次 前期	哲学	講師名	川久保 学	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	人間とは何か、人間らしく生きるとはどのようなことか、生きること、死ぬこと、自由であることといった、いわば当たり前のことを、あらためてどのようなことかを問い、人間そのものへの視野を広げる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	功利主義と義務論 ― トロッコ問題とパンデミック問題	トリアージについて調べる
2	法と自由 ― チャタレー裁判と輸血拒否裁判	自己決定権について調べる
3	自由権と生命権Ⅰ ― 人工妊娠中絶問題	プロチョイス・プロライフについて調べる
4	自由権と生命権Ⅱ ― 脳死と臓器移植	三徴死と脳死の違いについて調べる
5	自由権と生命権Ⅲ ― 自殺と安楽死	尊厳死と安楽死の違いについて調べる
6	障害者差別を考えるⅠ ― 優生学と出生前診断	出生前診断について調べる
7	障害者差別を考えるⅡ ― 差別と平等	ケイパビリティについて調べる
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	キーワードをしっかりと把握しながら学習して下さい。
評価方法	レポート試験 100 点
テキスト	講義で必要資料を配布します。
参考文献	鷲田清一：『〈聴く〉ことの力』講談社学術文庫.2012
備考	随時、VTR 等を利用してビジュアルな講義を工夫するとともに、双方向的・対話的な学びの中で、人間存在を生老病死の視点から深く考え直す練習をします。

3 年次 前期	運動生理学	講師名	木内 政孝	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	生理学をもととした身体活動、運動、スポーツに関連した「からだのしくみ」を講義・演習をとおして理解し、健康の保持・増進にむけて自ら工夫し創造する姿勢を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	現代における身体活動、運動の状況とその意義	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
2	運動と呼吸・循環器系機能 高血圧との関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
3	運動と栄養、エネルギー代謝、内分泌系 メタボリックシンドロームとの関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
4	骨格筋の構造と機能、筋線維タイプ・収縮特性 ロコモティブシンドロームとの関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
5	運動と骨代謝 骨粗鬆症との関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
6	運動における脳・神経系の制御 メンタルヘルス、フレイル、認知症との関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
7	運動と免疫、酸化ストレス がんとの関連	授業プリントの復習、及び自身の調べ学習
8	まとめと評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	常に学んだことを自身の生活や将来に活かすという意識をもって、受け身ではなく、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨んで下さい。
評価方法	毎回のミニレポート：70 点、課題レポート：30 点
テキスト	小山勝弘・安藤大輔：運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで 三共出版
参考文献	
備考	

3 年次 前期	保健行動科学	講師名	政近 彩子	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	看護の対象である人々の認識のありようと行動との関連を学び、対象への関わりに必要な人間行動科学、とりわけ保健行動、セルフケア行動への支援に必要な基礎的知識を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	こころのメカニズムについて	
2	行動理論について I	
3	行動理論について II	
4	認知行動科学について I	
5	認知行動科学について II	
6	患者の理解	
7	看護職者の理解・まとめ	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	講義中、自分の意見を小レポートに書き、学生同士でシェアすることが多くあります。積極的な参加を期待します。
評価方法	筆記試験 70 点 平常点 30 点（出席と小テスト・小レポートによって決定）
テキスト	長田久雄 看護学生のための心理学 第 2 版 医学書院
参考文献	
備考	

4 年次 前期	教育学	講師名	益井 明子	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	「教育」が人間の成長・発達にどのような意味を持つのかを知ることによって、深い人間理解を養い、自己および他者を理解する手立てとする。「教えをうける」だけでなく、「自ら学ぶ」ことによって人間は成長・発達する存在であることを理解し、一人ひとりが「学びを通して看護師として熟達していく」ことを目指す。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	「できる」とはどのようなことか — グループワーク —	「教室での学び」と「実習での学び」に違いがあるか否か、また、そのように考える理由を明確にして講義に臨むこと。講義後にはグループワークで体験したことの意味を考えておくこと。
2	「暗黙知」と「形式知」	「頭で分かる」ようになることと「身体ができる」ようになることが、ともに「自らの学び」であることを理解した上で講義の臨むこと。講義後は、「教室での学び」が「実習での学び」にどのように活かされているか、自らの考えをまとめておくこと。
3	知識があるほど学びやすい — 「初心者」と「熟達者」 —	初心者」と「熟達者」はどちらが「学び」を深めやすいか、自分なりの考えをまとめた上で講義に臨むこと。
4	「定型的熟達者」と「適応的熟達者」 — 真の「熟達」とは —	「熟達」の意味を調べた上で講義に臨むこと。また講義後は、真の「熟達」のためには何が必要とされるのか、自らの考えをまとめておくこと。
5	状況に埋め込まれた学習 — 正統的周辺参加理論・個別性の理解 —	実習において、「うまくいかない状況を乗り越えた」といったような自らの体験を講義内でまとめられるよう整理しておくこと。講義後は再度、「教室での学び」が「実習での学び」にどのように生かされているか、自らの考えをまとめておくこと。
6	「反省的实践家」としての看護師	「反省・省察」の意味を調べた上で講義に臨むこと。講義後は、「看護師として熟達していく」ためには、「反省・省察」を通して自ら学び続ける必要性があることについて、自身の体験と関連づけて理解を深めておくこと。
7	看護師としての成長と「学び」	これまでの講義内容を踏まえ、看護師として成長するためにはどのようなことが必要か、自分なりに考えをまとめた上で講義に臨むこと。また、講義後には「自ら学ぶ」姿勢が看護師としての成長・発達にどのような影響を及ぼすのか、自身の考えをまとめておくこと。
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	「自ら学ぶ」ことが人間の成長・発達にどのような意味を持つのかについて、多角的に学習していきます。そのため、毎時、講義内容を踏まえた上で自分なりの考えをまとめる姿勢をもち、講義に臨んでください。
評価方法	筆記試験（70点）、講義に臨む態度・毎時提出するワークシートの内容（30点）を総合して評価する。
テキスト	テキストは使用せず、毎回プリント配布する。
参考文献	ドナルド・ショーン：省察的実践家とは何かープロフェッショナルの行為と思考、鳳書房 ドナルド・ショーン：専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える その他：講義内において、随時紹介する。
備考	